

社団法人日本新体操連盟

平成 21 年度第 2 回理事会議事録

1. 会議名： 平成 21 年度第 2 回理事会
2. 日時： 平成 21 年 12 月 18 日(金)10 時 30 分～11 時 55 分
3. 場所： 東京都渋谷区代々木 2-2-1
「小田急ホテルセンチュリーサザンタワー・21 階オースティンルーム」
4. 構成員現在数： 17 名
5. 出席役員： 二木 英徳 (会 長) 朝倉 正昭 (副 会 長) 福本 隆 (副 会 長)
荒井 隆 (専務理事) 関田史保子 (常務理事) 渡辺 守成 (常務理事)
池田真喜子 (理 事) 岡 久留実 (理 事) 崇島 慎一 (理 事)
橋本 千波 (理 事) 藤島八重子 (理 事)
石崎 朔子 (常務理事) 秋山エリカ (理 事) 上村 郁子 (理 事)
谷口 裕代 (理 事) 谷原 誠 (理 事) 山崎 浩子 (理 事)
岩本 晃 (監 事) 田中 元 (監 事)

以上 17 名 (うち委任状出席 6 名)
その他監事 2 名 (うち委任状出席 2 名)

6. 欠席役員： 以上 0 名

7. 議案：

報告事項

- 報告事項 1 平成 21 年度登録状況について (定款第 3 章関連事項)
報告事項 2 平成 21 年度実施事業について (定款第 5 条関連事項)

決議事項

- 第 1 号議案 平成 22 年度事業計画について (定款第 5 条関連事項)
第 2 号議案 その他

8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

(社)日本新体操連盟・定款第 24 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第 32 条により、議長は議事録署名人を荒井隆専務理事と関田史保子常務理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第 25 条の定めにより、理事会出席者数委任状含めて 17 名であることが池田理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、荒井隆専務理事が進行を務めるよう依頼した。

報告事項

報告事項1 平成21年度登録状況について(定款第3章関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

(はじめに)

平成21年度の登録状況として

登録選手数 8,767名

愛好者数 35,937名

登録指導者数 1,397名

登録審判員数 1,118名

であった。登録選手数、指導者数は前年に比べ多少減り、審判数はほぼ同じ、愛好者数は多少増えた。愛好者数は協力依頼であるため、実態はつかみづらいことが説明された。

質疑・報告

(目標設定)

二木会長・渡辺常務理事より、登録・愛好者数が頭打ちになっていることが指摘され、例えば愛好者10万人というような目標設定をし、その目標を達成するための方法を検討することとなった。また、サッカー、バレーなどの他競技の人口を調査し、現在のスポーツ界の状況を研究し、対策をとることも検討することとなった。

報告事項2 平成21年度実施事業について(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

「第18回クラブ選手権」

(はじめに)

第18回全日本新体操クラブ選手権を

開催日時:2009年8月24日(月)~27日(木)

開催場所:東京体育館

参加者数:192チーム576名

で開催された。前回大会に比べ約30チームの減少となった。理由として、今大会からジュニアの年齢を昨年の12歳から国際基準に合わせた13歳に変更したため、一番選手数が多い小学生が参加できなくなったことによる減少と思われる。また、地方によっては8月末は夏休みが終了しているため、参加しづらい地域もあることなど報告された。

質疑・報告

(インフルエンザ対策)

福本副会長より、大会でのインフルエンザ対策についての報告を求められ、渡辺常務理事より会場に消毒液を置いたこと、期間中は流行の谷間であったことなどの報告がされた。

(審判講習会)

橋本理事より、審判講習会に参加したい人が多くいる、しかしその人たちからは費用が高いとの意見を聞いている。現在の参加者数から考えれば、費用を下げた学習の場、指導員の技術向上の場を設けてもよいのではないかと提案があった。

二木会長、福本副会長、渡辺常務理事などより、このセミナーの目的は大会審判のためのセミナーである。多くの人に受けてもらうことが主旨ではない。との理由により、現状維持とすることとなった。

「第10回日本新体操祭」

(はじめに)

第10回日本新体操祭を

開催日時:2009年8月29日(土)

開催場所:東京体育館

参加者数:43 チーム 1486 名

で開催した。毎年イオンカップと同時開催していたが、今年は三重県で開催された「世界新体操選手権大会」によりイオンカップが休止となり、今回は「2009 スポーツ健康フェスタ東京」のイベントのひとつとして開催した。サブアリーナでは講演会などが行われており、メインアリーナのみの開催だったが、マナー良く、混乱なく開催できた。

質疑・報告

(開催)

渡辺常務理事より、今回イオンカップと同時開催ではなく開催できたので、今後は単独もしくは体操協会と連携して開催することを、費用面、会場面を含め検討することが伝えられた。

藤島理事より、新体操祭的な大会は結構ある。しかし、指導者からすれば、クラブの生徒のことを考えて出場させてあげたいと思うことが伝えられた。

「第9回クラブ団体選手権」

(はじめに)

第9回全日本新体操クラブ団体選手権を

開催日時:2009年9月20日(日)

開催場所:東京体育館

参加者数:110チーム704名

で開催された。今年度よりFIGルールが変更となったため、採点に時間がかかった。そのため、予定終了時間より遅れが生じた。次年度より、開催日を1日延長して対応する予定である。

参加人数は前年に比べ4チーム減少した。三重県の世界選手権の翌週の開催であったため、世界選手権役員を兼ねる指導者からは「今年は参加できない」とのお声をいただいた。次年度は例年通りの参加者数が見込まれる。

質疑・報告

(開催)

福本副会長より、ほんの少しのチーム数の増減で、開催日を延ばすのは経費的に、利便性的に問題があるため、スムーズに開催できるスケジュールの検討が必要である旨の指摘があった。

(競技進行)

橋本理事より、新ルールによりA審判の採点方法が項目のチェックとなったので、チェックおよび、点数計算に時間がかかったことが報告された。

池田理事より、点数計算の確認に時間がかかっていることが重ねて報告された。

関田常務理事より、4人の審判がいるのであれば、上下カットしてすぐに得点を出すことが、理想である旨、認識の調整は審判セミナーで十分調整する必要があることが意見された。

渡辺常務理事より、2日間で開催するのであれば、予選、決勝で開催し、決勝進出上位10チーム位で開催方法を検討することが提案され、実施することで決まった。

決議事項

第1号議案 平成22年度事業計画について(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

(はじめに)

来年度事業計画として、

「クラブ選手権」 8月29日(日)～31日(火) 練習日28日(土)

「団体選手権」 9月11日(土)～12日(日) 練習日10日(金)

「イオンカップ」 10月8日(金)～10日(日)

「新体操祭」 10月9日(土)

「チャイルド選手権」 2月25日(金)～27日(日) 練習日24日(木)
で体育館を予約していることが説明された。今年度との違いは、イオンカップが再開されることであることが付け加えて説明された。

「チャイルド選手権」では2009年度FIGルールの変更があり、橋本理事より「チャイルドルール」の変更の提案がある。大きな点は「テーマ」が設けられること。「テーマ」を審査する審判が出来たこと。規定要素の数が変更となったことが挙げられた。

質疑・報告

(スケジュール)

福本副会長より、理事会の年間開催回数の確認が行われ、定款で年最低2回以上の開催が決まっていることが説明された。

渡辺常務理事より、総会の参加クラブの出席数が問題視され、総会をもっと多くのクラブが参加できるよう制度改革を検討することが報告された。

(チャイルドルール)

福本副会長、荒井専務理事、渡辺常務理事などから、テーマに点数をつけるのは非常に難しく、公平性が保てないことの見解が相次いだ。

岡理事より、テーマに採点をつけることが目的ではなく、FIG新ルールで重要視されることとなったA評価を高めるために、テーマをつけることを奨励したい旨が伝えられた。

以上の質疑応答の結果、平成22年度第13回大会のルールは現行ルールをもとに、難度表を変更、演技にテーマをつけ、テーマには評価をつけないことが決まった。

第3号議案 その他

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

(5)閉会宣言

議長は他に質問、意見がないことを確認し、理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成21年12月18日

社団法人日本新体操連盟 平成21年度第2回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 荒 井 隆

同 関 田 史 保 子